

笑うしかない友'24

(無断使用、改変、自由)

目次

- 76 私は何？
- 77 ガラスの初恋
- 78 みんなのせい
- 79 温暖化
- 80 六角形
- 81 フランケンシュタイン
- 82 無理な事情 (実話に基づく)
- 83 信頼回復
- 84 ルッキズム
- 85 ルッキズム 2
- 86 猛暑
- 87 ケーキ
- 88 間違い電話
- 89 世界はおいくつ？
- 90 フランス帰りの女子
- 91 エジソンは偉い人
- 92 ちえっ
- 93 穴と溝
- 94 ハラハラ
- 95 嘘つき
- 96 ボクサー
- 97 びしばし

76 私は何？

「ここはどこ。私は誰」って、やってもらいたいんだ、け、ど……

はい。

ただし、3パターンね。

はい？

最初は喜劇的。お笑いでもいいよ。

お任せください。

次は悲劇的。お涙頂戴でもいいよ。わかるかな。

わかります。

最後は君なりに。喜劇でも悲劇でも不条理でも、何でもいいから。

はい。ええっと。はい。

じゃあ、アクション！

ここはどこ。私は誰。

くすっ。いいんじゃない。次。

ここはどこ。私は誰。

ちょっと大袈裟かな。さあ、最後。

ここはどこ。私は誰。

それって『かもめ』だろう？

かもね。

惜しいなあ。このままじゃ、未来は女芸人しかないよ。

どうしたらいいんです。

ちょっとあっちで待っててくれるかな。

そこはどこ。私は鴨ね。

はい。OKで～す！

(終)

77 ガラスの初恋

頭の上に団子なんか、載せるなよな。

何で？

だって、常識だろ？

髪、切れってんですか。

そんなことしたら、フェミニストになるぞ。

団子、二つにしましょうか。

春麗かよ。

じゃあ、どうすればいいんですか。

髪は旋毛で纏めてから垂らすんだよ、さらっと。

ポニーテールね。邪魔なんですよ、揺れるから。

放課後の校庭で走るポニーテールの君を男子に見られたくないのか。

どうせ、「好きだよ」と言ってくれないんでしょう？

淡い恋だから。

うぜ。

男子たちのガラスの心を傷つけるなっつってんだよ。

馬鹿みたい。

あの頃は恋だとも知らないで、「さようなら」も言わないで別れるんだよ。

何ですかあ？

片隅で聞いていたボブ・ディラン。
要するに、先生、私のこと、嫌いなんでしょ。
好きだよ。
ぎゃあ。このバカバカバカ。
どうした？
私の青春の1ページが汚れたんだよ。
何、それ。
最初に「好きだよ」と言われるタイミング、決めてあったんだから。
へえ。
スタバの前の街路樹の下で初雪が降った夕方。
じゃあ、そこでやり直すか。
もう、全然、わかんない。ていうか、わかってないんだ。
世代間のギャップだね。
あなた好みの、あなた好みの女になんか、なりたくないの！
旋毛曲がり。そこから直さなきゃな。
うっせ。
とにかく、この団子をだな……
やめて、やめて、やめろ！
団子なんか、作ると、こうされるんだよ。常識だろ？
痛い！ わかった。わかったから、やめて。
さあて、どうしようかなあ。
へっ、変態？
ほおら、ひよろひよろ。
ヒー。ヒー。
フへへへ。笑うしかないよな。
(終)

78 みんなのせい

もう、もう、もう！
明日は我が身。
どうかと思うわ。
俺のせいじゃねえよ。
また私のせいにする気？
誰のせいでもありやしない。
政治のせいね。
かもね。かもね。そうかもね。

金持ちのせいね。
噂を信じちゃいけないよ。
誰を信じればいいのか？
誰でしょね。
この世に神様が本当にいるなら……
神様同士で殺し合え。
本当に悪いのは誰？
みんな、みんなが悪いのさ。
もう終わりですね。
誰に言ってんの。
みんな！
笑うしかないな。
笑いたくない。
じゃあ、歌うしかないか。
『嘘の月』を？
(終)

79 温暖化

「暖かい」って、どう読む？
・アタタカイ。
アッタカイ。
・「暖かかったつけ」って言いにくいよね。
アッタカッタツケでいいんじゃない。
・アタタカタカタカッタツケじゃどう。
なら、アッタカッタツカッタツカタッタツケツケ。
・負けてなるか。アカタカタカタカタカッタカッカカタケツケケケケ。
野球小僧に会ったかい。
(終)

80 六角形

「分度器」を「フンドギ」と読む子がいた。
読めなくはない。
「雰囲気」を「フィンキ」と読む子がいた。
読めない。
「筋肉マン」を「気に食わん」と言う子がいた。
いるかもね。

「鉛筆削り」を「エンペッツォトンゲレ」と言う子がいた。
却って言いにくい。
その子は鉛筆削りで鉛筆を削ることができなかった。
どうして？
算数もできなかった。
それは私もです。
「六角形」は「ロクカクケイ」？ それとも「ロッカッケー」？
どっちもあり。
どっちも間違い。
えっ。嘘？
皆様は御存知ですか？
(終)

81 フランケンシュタイン
ニンゲンガクサルって、どういうこと？
人間は猿の仲間ってことだね。
猿じゃなくて、腐るんだよ。
腐乱死体か。
いやいや、死体じゃない。
フランケンシュタインの怪物は腐乱してないな。
死体から作ったけど。
生ける屍？
死に体？
五体不満足？
寝たきり？
腸が腐るとは言うね。
性根が腐るとも言う。
味噌が腐るとも言うか。
じゃあ、脳味噌が腐るんだ。
脳生理学者なら、何か知ってるかも。
脳整理がクシャクシャ？
マッド・サイエンティストだろうか。
(終)

82 無理な事情 (実話に基づく)
 $\sqrt{2}$ とは何ぞや。

一夜一夜に人見頃、ゴロゴロ。
そういうことじゃなくて。
富士山麓に鸚鵡鳴く、メソメソ。
全然違う。
富士山麓に鸚哥真理教。
おいおい。
人並みに怒るんや。
何ぞやと聞いてんだよ。
2の平方根でしょ。
惜しい。
僕は惜しい人なんだな。
 $\sqrt{2}$ とはな、2の平方根である $\pm\sqrt{2}$ の正数の方だ。
じゃあ、逆に聞いてもいいかな。
いいとも。
2とは何ぞや。
1より1大きい数だ。
4の平方根の ± 2 の正数の方だよ。
むむ？
 $\sqrt{2}$ はね、計算で出て来たんじゃないよ。
えっ？
一辺が1の正方形の対角線の長さだよ。
だから何。
マイナスの長さって何。
意味不明。
だからさ、 $\sqrt{2}$ は正数に決まってるの。
えっ。
ていうか、無理数は正負の概念とは無関係に出て来たんだね。
無理に？
笑ってもいいかな？
いいけど。
「いいとも」だろう？
(終)

83 信頼回復

・ノブヨリって、誰？
信長の子孫かな。

・織田信成みたいなの？

頼朝と関係があるのかも。

・徳川信康みたいなの？

彼の映画を観たような気がするな。

・藤原信頼かな。

平治の乱の後、清盛に殺されたって人。

・彼が回復するってさ。

生き返るわけないよね。

・幽霊？

名誉回復？

・ううむ。わからん。近頃、わからんことだらけだ。

ああ、シンライだよ。シンライ。

・信西みたいに音読みするのか。

いや。

・シンゼイはシンライに殺されたんだっけ？

わざと言ってない？

・そんな余裕はないよ。

よう言うよ。

(終)

84 ルッキズム

土屋太鳳は、大谷直子に似ている。

知らな〜い。

上白石萌音は、上白石萌歌に似ている。

どっちが上だっけ。

広瀬すずは、広瀬アリスに似ていない。

うんうん。

山下美月は、山本美月に似ている。

名前はね。

小池真理子は、小池百合子に似ている。

えっ。日大、出てなかった？

のんは、能年玲奈に似ている。

本気で言ってる？

八木莉可子は、誰にも似ていない。

聡明、やっぱり、美貌の人。

井上咲楽は、誰かに似ている。

知ってる。
橋本環奈は、誰かによく似ている。
知ってるってば。
(終)

85 ルッキズム2

狩俣幸奈は似ている。
誰よ。
森下花音は似ている。
似せてんのよ。
君は似ている。
聞き飽きてる。
十年前の浦口史帆に似ている。
今は？
差別語かもしれない。
いいよ。
美人。
花の命は短いよね。
(終)

86 猛暑

さっき、道、歩いててね。
うん。
通りすがりの人と目が合ったわけよ。
ああ。
そしたら、その人が目を逸らしながら「暑い」って言ったんだよね。
ふん。
で、そのまま、行っちゃった。
はあ。
それからしばらく耳の奥で「暑い」って声がずっと響いててさ。
ふうん。
「暑い、暑い、暑い」って。
もう。
ただでさえ暑いのに、「暑い、暑い」ってさ、聞こえるんよ。
うん。
わかるけど、でもさ、わざわざ、こっち見て言うこたないよね。

あはあ。
こっちのせいじゃないのに。
俺のせいじゃないよ。
言いたくなるのはわかるんだよ、でも、どうしてこっち見て……
うるせえ！
(終)

87 ケーキ

お米が高くなった。
貧乏人は麦を食え。
麦だって結構なものよ。
パンが食べられなければケーキをお食べ。
景気が悪い。
それが落ちかい。
人食い熊を食べよう。
クマのプーさんとヒトのプーさん。どっちが大事？
熊の手は高い。
猫の手は？
不味そう。
孫の手は？
あの手この手。
その手は桑名の焼き蛤。
あっ、いいね、蛤。
(終)

88 間違い電話

アナタノオカケニナッタ電話番号ハ現在デハ使ワレテオリマセン……
知ってる。君は知ってるかな、現在ではなく、過去にこの番号が使われていたこと。知らないよね。だったら、未来はどうだい？ 知らないよね。
アナタノオカケニ……
アナタって誰だよ。君は僕が誰だか、知っているのかい。知らないよね。知るはずがない。知られたくないから、僕はこの番号を選んだのさ。
……使ワレテ……
君は使われて？
……オリマセン……
君はいない。どこかにいるとしても、今はいない。僕の前にはいない。後ろにも、横にも、

上にも、下にも。遠い池の畔に自生した木の枝で花卉が誰にも知られずに咲いて散るように、君はいない。君とのありえない出会いのことを、君は知らない。

君は何かを隠している。たとえば、正しい電話番号とか、正しい挨拶とか、正しい生き方、そして、死に方。

君は笑っている。きっと笑っている。そして、その笑いを隠している。笑うがいいさ、好きなだけ、勝手に、喉が嘎れて裂けるまで。

もう、終わりだよ。遅い。遅すぎる。だから、もう笑うことしかできないんだ、君は。そのことを君は隠しているよね。

笑いは最初の挨拶。そして、最後の挨拶。愛の挨拶。

現在デハ……

現在、君はどこにでもいる。どこにでもいることができる。どこにでもいてしまう。だから、君はいない。君はいなかった、いつも。

使ワレテ……

ほんの一息で吹き消すことができそうな炎を時間という風から守るように、君はある記憶を守ってきた。この炎という言葉は、誰かのある記憶の比喻だけど、同時に、その記憶の中で揺れ続けている炎それ自体をも表すんだ。知ってるよね。知ってて違う話をしてるんだよね。たとえば、電話番号とか、地球の未来とか、被害の思い出とか、行かなかった海の波打ち際とか。でも、僕は君の声をここでこうして聴いている。まるで、記憶の中の僕の両手が炎を覆うように、この耳を守っている。守れば守るほど、君の声が脳味噌に突き刺さって苦しい。

アナタノ……

僕は誰なの？ 僕の手を持ち主は誰なの？ 僕の手を持ち主が誰か、君は知っているの？ 僕の知っている持ち主は、僕ではない。僕だと確定することができない。確定する根拠がない。かつては僕の手だった。でも、根拠はなかった。ただ、そのように教えられただけだ。そして、信じた。この手は僕の手だと。でも、思い出せない、その手が触れた何かを。その手が何に触れて、そして、びくっとして引っ込んだのか。君の何に触れたのか。触れなかったのか。

アナタ……

ああ、何度でも呼びたまえ、アナタと。僕を知らない君の声のアナタと言う。そして、それを僕の耳が捕まえる。何て平和なんだろう。

アナタ……

君と僕はあの同じ炎に手を翳してみたよね、あの夜、街路樹の下。マッチの炎を風が吹き消す前に、誰かが吹き消した。君か？ 僕だっけ？ じゃなくて、他の誰か？ 違うか。でも、今の僕に思い出せる炎の熱は、あの夜の熱とは違う。だから、この手は僕の手ではない。

オリマセン……

近すぎるよ。火傷しちゃうよ。君の手は冷たい。機械のように冷たい。機械のように冷た

い君の声。

現在デハ……

近い。近すぎるって。危ない。もっと離れて。そして、もっと話して！

あなたは出口を見ないことに決めていたんだよね。見えても見詰めないことにした。急速に落下する太陽の縁で、あそこからどこかへ帰還する鳥が翼を焦がすのを見たくなかった。あそこがどこだか、君は教えてくれなかった。

出口なんか、なかった。出口は比喻だ。ありもしない何かの比喻。君は何かを忘れたがっていた。でも、何を忘れたいのか、言葉にできなかった。思い出せなかったのかい？

アナタ……

よく聞く言葉だ。それが今も聞こえた。

僕が何を待つかによってアナタが誰なのか、決まる。僕が僕を待つのが現在なのか。

君は扉を見てしまう。そして、すぐに目を逸らす、壁に、床に、椅子に、窓に、空に。

扉が少しだけ開いている、いつからだろう。誰が開けたのか。自分で開けたのか。

扉は締まらない。誰かが蝶番を壊した。何度修理しても壊される。

扉の向こうで何かが動いた。蝶番の破壊者かやってきたのか。でも、何かはもういない。蝶番がまだ修理されていないから。違うか。

扉は閉ざされている。だが、その向こうで何かが動く。そんな気配がする。音はしない。

君は排除されようとしている。僕によって排除されようとしている。違うか？

君は退屈している。退屈するから、排除される。いい気味だ。

君は退屈し続けている。同時に緊張し続けている。

扉を開くと、廊下にいる何かを見ることができる。だが、君は扉を開かない。

君は自由だ。いや、自由ではない。君には僕を黙らせる力がない。だから、僕は自由だ。

君の声を聴くときだけ、僕は自由だ。

自由とは何か。放棄だ。君の声を聴く権利の放棄だ。

僕は自由だ。君の声を聴いている僕の未来では、自由だ。

君に僕の声は聴こえない。だが、僕の声は聴かない自由は、君にはない。君は放棄できない、何も。

アナタノ……

君は隠している。湧き上がる怒りを隠している。あるいは、恐れを。

アナタ……

君は君ではない。だから、君には君でなくなる自由がない。

オカケニナッタ電話……

いや、この番号は間違っていない。間違っていなかった。だって、こうして君の声を聴いてるんだから。

……番号ハ現在……

退屈かい？ 殺してあげようか？ 僕は君を殺すことができるよ、簡単に、たった一つの

言葉で。あばよ。

……バイチャ。

(終)

89 世界はおいくつ？

「世界はひとつ」って巴里に書いてあったよ。

「露西亜はひとつ」じゃなくて？

どういう意味かな？

日本人が書いたんなら、八紘一宇って意味だろうね。

統一教会の人かも。

飛び降りるのが好きなカルトの人かも。

世界同時革命って意味かも。

世界同時不況って意味かも。

世界がひとつなら、五輪ピックは一輪ピックになるね。

何色を選ぼう。

日本人なら赤でしょう。

中国人も赤でしょう。

日本人は輪の中を赤く塗る。

中国軍が赤旗を掲げて沖縄にやって来る。

露西亜軍が黙って北海道にやってくる。

北朝鮮軍が北朝鮮に……

えっ？

間違えました。ごめんね、ジロー。

謝って済むと思うなら、仏蘭西人だぞ。

狂信者が仏蘭西人を襲う。

啓示宗教の信者による三つ巴の戦いが激化する。

啓示宗教の信者が自然宗教の信者を死刑にする。

自然宗教の信者が啓示宗教の信者を死刑にする。

共産主義者があらゆる宗教の信者を収容する。

白人が黒人を、黒人が黄色人種を差別する。

黄色人種が黒人を差別し、黒人が白人を逆差別する。

女は男に報復する。

男は女に報復する。

親は子を殺す。

子は親を殺す。

怨念が世界をひとつにする。

第三次世界大戦になるね。
戦争から逃げようたって無理さ。
だって、地球は丸いんだもん。
犬が人を食う。
鳥が人を食う。
人が人を食う。
原発に原爆が投下される。
近代国家は崩壊するよ。
沸騰化が加速する。
地球は火の玉になる。
貧窮者は絶滅する。
廃墟の空を鳩が飛ぶ。
生きることの喜びを富裕者は満喫する。
選民による選民のための平和と繁栄を祈念する一輪ピックが開催される。
開会式で諸行無常の鐘の音が響き渡る。
臍殿下が降臨する。
なるへそ。八紘一宇って、そういうことか。
英吉利や独逸と戦って亜米利加軍は負けたことがない。
そのうち、スマホで戦えるんだ。
もう、戦ってるって。
笑ってもいいかな。
私はいいけど、宮家はどうかな。
(終)

90 フランス帰りの女子

夏にやり残したことって、何かありますか？
この間、ちょっとフランスに行ってたのね。
知ってます。
自分、日本人なのに、日本のこと、よく知らないなって、感じた。
で？
チランに行ってみたい。
ヤスクニじゃなくて？
チランだと、トッコーの人に会えるから。
トッコーなら、どこでもバイクで走ってますけど、国旗揚げて。
飾りじゃないのよ、国旗は。
ですよ。

ああいうエゴイストじゃなくて、オクニのために頑張った人。
あなたもガンバリストなんですよ。
まだまだだから。
オクニのためのガンバリストなら、中国にもいますよ。
どっちかっていうと、韓国がいいかな。
どうして？
アイちゃんのことがあるし。
チランに行くと、どうなるんです？
タイムトリップができるかも。
で、本物のトッコーに会えるとか？
うんうん。
そして、恋に落ちる？
オクニのために死にに行く彼氏を見送るのよ、大泣きして。
泣いてスカッとしたい？
悲劇的恋をするって素敵じゃない？
自分の内部の男性的ガンバリストを排除したいんですかね。
イミフ。
ガンバリストを辞めて、結婚したい？
結婚ありきじゃなくて。
アバンチュールを楽しみたい？
あっ。フランス語だあ。
(終)

91 エジソンは偉い人

君の夢は何か？
インチキおじさん、登場。
何だって？
おじさんの夢は何なの？
えっ？
エジソンみたいな発明家になるの？
いや。
マジソンみたいな政治家になるの？
いや、それは、もう。
テニソンみたい文学者になるの？
もう……
じゃあ、バイソンだ。

牛じゃないよ。
夢が叶わなきゃ倍損するバイソン！
もう、もう。
ほら、牛になっちゃった。
(終)

92 ちえっ

思ったことをすぐ口に出しちゃいけないんだよ。
煙管の灰が袂に飛び込んでも？
えっ？
嘘を吐けてこと？
ほらほら、そうやって、すぐ。
ああ、そうか。じゃあ、嘘を吐いてもいいかな？
いけないよ。
「いいとも」じゃないんだ？
何、それ？
じゃあ、どうするの？
遠回しに言うんだよ。
そして？
相手が賛成してくれそうだったら、少しずつ本音を漏らすんだね。
分かった。あっ。「分かった」って言ってもいいかな？
いいよ。
じゃあ、やってみよう。
どうぞ。
おほん。ご両親はご健在であらせられますか。
母は生きているけど、父は死んだよ。
では、お父様はあなたに本当のことを言わずに亡くなられたんでしょうね。
えっ。何、「本当のこと」って？
失礼致しました。チャック。
いや、いいから、続けて。
では、お母様はもう本当のことをおっしゃられましたか。
だから、何よ、「本当のこと」って？
失礼致しました。チャック。
ああ。もやもやする。遠回しは止めて、さっさと見え。
では、お言葉に甘えまして。
うむ。

君は自分の本当の父親が誰か知ってる？

何だと？

やっぱり駄目か。チャック。

何が言いたいんだ。

言いたいことは、もう言ったよ。次は君が答える番だ。

この野郎。人のことを馬鹿にしやがって。

馬鹿になんかしてないよ。聞いてるだけだよ。

それが馬鹿にしてるってんだ。

へえ。どうして？ ああ。答えるんなら、遠回しは止めてね。

おれのおふくろが浮気をしたってのか？

言っていないよ、そんなこと。

遠回しに言ってるんじゃないか。

言っていないって。

言ってる！

君は自分の父親に「僕の本当の父親は誰ですか」って聞いたことある？

ない。

ないのに、どうして知ってるの？

ううむ。写真がある。

君とお父様は似てる？

ああ。

君のお父様とそのお父様も似てる？

ええっと。似てるに決まってるだろう。

じゃあ、君とおじい様も似てるわけね。

だから何？

『暗夜行路』は読んだ？

志賀直哉？

ええ。

読んでない。

お母様が読むなど？

いや。あれ？ どうだったかな。

君は自分の母親に「僕の…

止めろ。

僕は僕の本当の父親が誰なのか、知らない。

あっ。そうか。悪かったな。ごめん。謝るよ。

何で謝るの？

えっ？

遠回しに僕を馬鹿にしてるんだよね。

いやいや。とんでもない。

していいんだよ。

いいんだ？

君が僕を馬鹿にするのは、君が君自身を馬鹿にするのと同じなんだから。

それって遠回し？

君は誰かに、たとえば君自身に、本当のことを言ってる？

ちえっ。

「ちえっ」は本音？ それとも遠回し？

いつか殺してやる。

君自身を？

チャックしろ。チャック！

(終)

93 穴と溝

穴があってね……

・壁に？

ああ。ううん。どうかな。

・塀に？

どっちにしろ……

・論理に？

かもしれない。

・かもしれなくなければ？

穴があると、のぞきたくなる。

・覗く？

さあ。

・除く？

さあ。

・その穴は、ただの凹み？

じゃないんだろうな。

・貫通してるんだね？

知らない。深いだけかもしれない。

・なぜ？

だって、まだよく見てないから。

・やっぱり覗くんだ、除くんじゃなくて。

いや、だから、知らないんだよ、穴が何なのか。

・どの穴？

いや、「どの」と言われても……

・この穴？

えっ。どの穴？

・これだよ。

だから、どれ？

・じゃ、あれか？

あれもこれも知らないよ。

・あれなら誰だって知ってるさ。

私は知らない

・知らないのは君だけかもしれない。

それが穴なのかもな。

・なぜ？

聞くかな。

・聞かなきゃわからないだろう？

何が？

・何がって、何？

何がって何って、何よ？

・例えば、ううん、溝かな？

何の溝？

・紙の溝かな？

神のみぞ知る？

・かもしれない。

君の溝が私の穴なのかな？

・成程、分り合えたみたいだね。

だから、それが穴なんだよ。

・どうでもいいけど、穴がどうしたの？

穴があると覗きたくなるわけ。

・その向うに何があるの？

穴を除いている人がいる。

・覗くんじゃなくて？

知らないよ。どっちでも一緒だろう、どうせ見てないんだから。

・一緒じゃないよ。

ね？ だから、それが穴なんだよ。

・これは溝だな。

いや、穴なんだよ。溝じゃない。

・どうやら分り合えたようだね。

ほら、そうやって溝を掘る。

・で、穴はどうなったの？

知るもんか。

・汁物か。

それでいいのか？

・無言。

目と目では通じ合えないよ。

・なぜ？

だって、覗いても除いてもいないんだからね。

・だったら、覗くか除くかしろよ、さっさと。

まだ分らないのかな。

・君はアナスキヒトか？

好き嫌いじゃないんだよ。

・じゃあ、何？

君は好きなのか、穴が。

・あの穴ならね。

(終)

94 ハラハラ

ハラハラって知ってるよね。

・腹が立つみたいなの？

知ってたんだ。

・パラパラとはちょっと違いますよね？

パラパラもハラハラになるときはあるよ。

・じゃあ、ばらばらでも？

『バラバラ』でパラパラでハラハラってことはあるんだな。

・今ちょっとそれやってもらっても大丈夫ですか。

それがハラハラ。

・ですよ。

ハラハラって便利だよ。

・大変便利を略して大便って言う人、いますもんね？

ハラハラを逆ハラと言う人だっているさ。

・もう何でもありなんだ。

自称被害者傲慢時代だから。

・それって、ちょっとモラハラですよ。

だから～それがハラハラ！

・じゃあ、ちょっともう何にも言えませんか。

AIに代弁してもらえばいいのさ。

・スマホが？

するよ。

・毎日？

毎日。

・でも、一回でしょう？

いいや、何回でも。

・へえ。私は三日に一回なんだけど。

人間の時代は終わったのさ。

・合点承知之助。

(終)

95 嘘つき

あのお方は偉い。

なぜ。

あのお方は尊いお方の生まれかわりだからだ。

エビデンスがあるのか？

エビデンスがあるのなら、信じる必要はない。

エビデンスがなければ嘘と一緒にだ。

言語に絶する真実を語れば虚偽と区別できない。

つまり？

信じるしかない。

嘘がまかり通るのを、指をくわえて見てろってか。

「嘘をつくな」と抗うのも、これまた自由だ。

誰がそんなことを？

あのお方だ。

ううむ。

論破できまい？

そのお方は偉い。

やっとお分かりか。

嘘だよ～ん。

(終)

96 ボクサー

スマホって、おかしいよね。

そう？

「そうそう」と言いなさい。

あそうそうり。

それ、聞くの、久しぶり。

スマホで妥協する？

略すなら、スマ・フォでしょ。

スマホじゃ、可愛い過ぎる？

違うんだって。

はいはい。

「はい」は一度でいい。

うん。

「うん」って言うな。

へえへえ。

それ、聞くの、久しぶり。

そうなんだ。

遭難者かよ？

どう言っても褒められる。

貴様、ひょっとして……

「ひょっとこ」って何？

「火男」だよ。

「火男」って？

スマホで検索しろ。

あっ。「スマホ」って言った。

いいんだよ、俺は、何言ったって。

ううむ、成程。

唸るほどか。

君ってさ、何様？

俺様は俺様さ。

僕さ、ボクサー。

それ、聞くの、久しぶり。

ボク！

言いたくないけど、痛くない。

ボカボカ。

言いたくないけど、もう居たくない。

遺体の遺体の屯田兵。

それ、聞くの……

(終)

97 びしばし

イシバ氏を叩いて渡ると言う。

・誰が言うの。

タマキンかな。

・タマキンって？

待たん気の人。

・何で叩くの？

壁を壊すため。

・壁はいつ壊れるの？

来年。

・来年のことを言うと鬼が笑うよ。

鬼って、プツンかな。

・まだいそう。

君ちゃうん？

・トラーと歩いていたプーさんは？

トラープーがびしばしと叩いて笑う。

・そろそろ、笑おうか。

来年は笑えそうにないもんね。

・でも、笑うしかない。

ゼニスキーは笑うかな。

(24 終)